


審査結果報告書

平成 29 年 9 月 4 日

主 査 氏 名 佐々木 治一郎 

副 査 氏 名 渡邊 昌彦 

副 査 氏 名 宮本 俊輔 

副 査 氏 名 佐藤 雄一 

1. 申請者氏名 : 小森 承子

2. 論文テーマ : Retrospective evaluation of the feasibility of definitive chemoradiotherapy after treatment with Docetaxel, Cisplatin, and 5-fluorouracil in patients with esophageal squamous cell carcinoma”
(食道扁平上皮癌に対する DCF 療法後の根治的化学放射線療法の適及的検討)

3. 論文審査結果 :

本研究は術前化学療法後の手術が標準治療とされるⅡ・Ⅲ期の食道扁平上皮癌において、術前化学療法後の根治的化学放射線療法の認容性と臨床効果および安全性を検討した17例の後ろ向き症例集積研究である。術前化学療法にはドセタキセル+シスプラチン+5-FUの強力な3剤併用療法を用いたが、化学療法後であっても全例に根治的化学放射線療法が施行可能であり、11例(85%)が完全奏効であった。1例に放射線性肺炎による治療関連死亡を認めたが、完全奏効後再発の3例と部分奏効であった2例の計5例にサルベージ手術が可能であり、再発時の治療にも本治療法はマイナスの影響を与えないと考えられた。

本研究は後ろ向き研究ではあるが、導入化学療法によるケモセレクションがその後の化学放射線療法の効果予測因子になる可能性を示唆しており、放射線腫瘍学分野における新たな作業仮説の一つを提唱したと評価できる。さらに、本研究の仮説に基づき、すでに本学が中心となる前向き第Ⅱ相試験が開始されていることも評価できる。

申請者はプレゼンテーションを適正に行い、質疑に対しても根拠を提示しながら丁寧かつ的確に回答した。本研究内容および質疑応答から、申請者が科学的思考と臨床研究実施能力を有することは明らかであり、学位取得にふさわしいと判断する。